

< 静岡県選挙関係史料紹介 2 >
旧静岡 3 区・民社党候補の選挙戦

前 山 亮 吉

『国際関係・比較文化研究』（静岡県立大学国際関係学部）
第19巻第2号（2021年3月）抜刷

【資料】

＜静岡県選挙関係史料紹介 2＞ 旧静岡 3 区・民社党候補の選挙戦

前 山 亮 吉

1. 本稿の目的
2. 史料解題
 - ア. 史料について
 - イ. 史料の背景（竹本孫一と旧静岡 3 区選挙戦）
 - ウ. 史料の内容に関する若干の考察（後継者安倍基雄の課題）
3. 史料覆刻

1. 本稿の目的

本史料紹介の包括的な目的については、「＜静岡県選挙関係史料紹介 1＞石橋湛山の昭和28年総選挙支出」（『国際関係・比較文化研究』第18巻第2号、2020年3月）の冒頭に既に記したので、詳しくはそれに譲る。今回の紹介の意義について一言すれば、民社党（1960～1994）所属の竹本孫一（1906～2002、旧静岡 3 区）という衆議院議員当選 7 回を数えた、政治家の選挙関係文書を紹介する点に存する。周知のように民社党の歴史は苦難に富み、日本における中道を標榜する政党の存立の難しさを物語っている。このことはとりわけ「保守王国」である静岡県で、自民党の厚い壁に挑戦する竹本の場合、特に鮮明に現れているのではないだろうか。もとより残された史料そのものは断片的であるが、特に興味深く本稿で覆刻するのは竹本の引退後、後継者安倍基雄（1931～2004）にバトンタッチした段階での後援会・選挙戦術等の存続を危惧し、継承を模索する史料群である。自民党政治家の多くはいわゆる「2 世議員」として世襲による比較的容易な地盤継承が行われているのは周知の通りであり、静岡県も例外ではない。しかし本件の事例はそれとは対照的であり、そこには多くの課題が横たわっていた。民社党候補であることの障壁と引退に伴う後援会等の継承難という二重の困難の実態が浮き彫りとなっている史料の紹介は、自民党に挑む今日の野党の選挙戦を考える上でも参考となる可能性がある。

2. 史料解題

ア. 史料について

ここで紹介する史料は国立国会図書館憲政資料室所蔵「竹本孫一文書」文書番号219「安倍基雄選挙対策」のうち、枝番号4（219-4）が付された「基友会関係資料」である。本史料群は14点（219-4-1～14）から成っているが、覆刻したのはそのうち重要と考えられる4点に絞った。文書の体裁は手書き文書をガリ版刷りしており、概ねA4用紙横書き2枚にまとめられており、後援会関係者配布を前提としている。参考のために前代議士の竹本の下にも配布され、保存されていたものと見られる。筆者は「基友会整備についてのお願い」（219-4-13、本稿では内容が重複するため覆刻していない）には「遠州基友会 副会長鈴木賢一 同棚橋節郎」とあるため、そのいずれかが起草したものと推定できる。最後に文書の作成時期であるが「昭和59年5月」の日付が付されたものが多い（覆刻史料D）が、内容から「昭和59年2月」と考えられる文書（覆刻史料A）も存在する。安倍が初当選した1983年（昭和58年）12月総選挙から日が浅い段階であることは共通している。

また次に述べる竹本自身の選挙を知るうえで有益である、初当選した1963年（昭和38年）11月総選挙に際して作成されたいわゆる「票読み」に関する史料（文書番号218-31「郡部基本選挙人名簿登録者数と獲得割当目標数」）を参考史料として末尾に掲載した。

イ. 史料の背景（竹本孫一と旧静岡3区選挙戦）

竹本の官界・政界歴はその前半と後半で対照的に見える。企画院調査官として「革新官僚」の道を歩んでいた戦前期、更には片山哲総理大臣秘書官を務めるなど比較的に日の当たる存在であったのが前半なら、公職追放を経て民社党代議士として過ごした後半は陰影の色が濃い。竹本は浜松市を大票田とする旧静岡3区（定数4）から10回の総選挙に挑みその結果は以下の通りであった（1）。

| | |
|----------|-------------------------|
| 1955年 2月 | 17,286票（右社で立候補、7位落選） |
| 1958年 5月 | 35,761票（社会で立候補、6位落選） |
| 1960年11月 | 54,411票（民社で立候補以下同、次点落選） |
| 1963年11月 | 71,569票（4位初当選） |
| 1967年 1月 | 72,547票（2位当選） |
| 1969年12月 | 72,547票（前回と同一票、4位当選） |
| 1972年12月 | 75,586票（4位当選） |
| 1976年12月 | 106,162票（2位当選） |
| 1979年10月 | 79,723票（3位当選） |
| 1980年 6月 | 89,087票（4位当選） |

旧静岡3区・民社党候補の選挙戦

3回連続落選後、7回連続当選を勝ち取ったが、その票数は基本的に7万票台を推移しており、唯一10万票に達した76年総選挙は常時3名の公認候補を擁立する自民党が例外的に候補を2名に絞った事情によるものと見られる。基本的に静岡3区は<自民3・非自民1>か<自民2・非自民2>かの議席攻防がなされており、基本的に竹本は非自民の議席を死守し続けた。67年と69年には同一票を獲得する「珍現象」を記録したように、竹本の票はその固定化に特徴がある。

竹本の選挙戦については、自身による「オーラルヒストリー」さらには竹本哲子夫人による選挙回想録が公刊されており、比較的資料の裏付けが多い(2)。哲子夫人は比較的安定した票が維持できた原因について以下のように述べている。

- ・大体私たちは過去何回かの選挙をN楽器のお世話になっている。企業ぐるみというほどではないがN楽の重役が後援会長であり、先に立って下請会社を歩いて下さったから実にらかな選挙であった(3)。

文中の「N楽器」は「日本楽器」であることが「オーラルヒストリー」で確認されているが(4)、こうした存在が本稿末尾参考資料にある票読みの「獲得割当」目安となったのかもしれない。しかし前年の浜松市長選挙(竹本は不出馬)をめぐる亀裂から、竹本が最後に挑んだ1980年総選挙(参院選と同日)では「N楽器」の支援を得られないこととなった(5)。危機に直面した哲子夫人は竹本の選挙の弱点を次のように活写する。

- ・竹本には同盟の票があるほかは何の組織もない。そして、この票だけでは、当選に必要な得票数の半分にも満たない(6)。

なるほど3回連続の落選はこうした同盟票のみに依存した結果であろう。従って選挙戦の要は、組織に属さない個人票の獲得にかかっていた。

- ・民社党は、こうした各党の谷間をぬって、残っている個人票を拾って歩かなければならない。だから骨が折れる。私はいつも、うちの運動員や秘書に同情していた。でも、選挙を十回もやると“落穂拾い”にも慣れる。少しはずうずうしくもなった。教職員組合や農協など、敵方と決まっているところにも、つてを求めて入り込んだ(7)。

哲子夫人の記録は生々しく個人票獲得の労苦を物語り、1963年の初当選の決め手も「同情票」であったと回想している(8)。当時行われていた公明党との選挙協力も功を奏し(9)、竹本は1980年総選挙でも最下位当選を果たした。竹本の選挙の本質は、きわめて<属人的な>ものであった。従って竹本引退後、継承した安倍基雄の選挙戦は、継ぐべき組織票・地盤という選挙における「資産」が乏しいという困難に直面する。

ウ. 史料の内容に関する若干の考察(後継者安倍基雄の課題)

後継者の安倍基雄は、内務官僚として警視総監も務めた安倍源基の長男であり、大

蔵官僚（大臣官房審議官）であった。政界に転身するにあたり、民社党の重鎮・春日一幸の薦めで静岡3区からの出馬を決断した。安倍自身は山口県出身で、当初参議院山口選挙区からの立候補を模索したが、自民党の公認争いに敗れ、やむなく縁故のない静岡からの立候補に至った（10）。

さて安倍基雄は1983年12月総選挙で4位初当選したが得票は80,458であり、竹本の前回票よりも8,600票減らしていた。本稿で覆刻した「基友会関係資料」以下4点は、冒頭で見たように選挙から日の浅い1984年2月から5月にかけて作成された。

史料A「民社の灯を消すな!!」

史料B「要望に対する具体的施策について」

史料C「基友会の充実と拡大」

史料D「安倍基雄再選必勝を期してお願い」（文書2点）

本史料群には、竹本孫一の＜属人的な＞選挙戦を継承せざるを得なかった安倍基雄陣営の焦慮と模索が浮き彫りになっている。重要な課題3点を紹介していきたい。第1の課題は、後援会そのものの脆弱性である。そもそも竹本後援会の「竹友会」自体堅固な組織ではなかったが（11）、安倍の「基友会」は実態そのものがないレベルであった。以下史料の表現を時系列に沿って示す。

- ・有名無実の基友会を如何に運営して行くのか（史料A）
- ・基友会の運営
 - イ、規約を整備し、早急に総会を開催する
 - ロ、各支部の結成準備（史料B）
- ・竹友会から基友会に移行されてから、必要に迫られ役員会は開かれましたが、未だ設立総会すら開催されず（史料C）
- ・遠州基友会として取敢えず、出来得る状況にある処から、遠州基友会地区支部の結成を事務局で、唯今要請にお伺いいたしております（史料D）

総会を開くほどの組織力を有しない基友会は、支部結成という基礎工事に取り組み例えば16地区に亘る組織形成（浜松9・磐周2・浜北3・湖西2）をイメージしていた（219-4-7「基友会組織系統図」、本稿では覆刻していない）。その際特に注目されていたのは「民社党支持同盟組合員OBの把握（史料D）」であることは興味深いですが、同時に形成される組織の高年齢化という限界を内包することとなった。

第2に注目されるのは支持者の声に現れた課題である。史料A・史料Dにはそれが列記されており、いずれも興味深い内容であるが、特に後者は安倍代議士の地域における存在感が希薄であることを、以下のように活写している。

- ・塩谷、柳沢両先生は良く見えますが、安倍先生は如何されておるのですか、矢張り東京の人ですかねえ。
- ・佐鳴台の人から、地区住民の殆んどの人達が、先生が地区住民であることを知らない前年総選挙で落選した塩谷一夫・柳沢伯夫の動向更には安倍自身が「浜松居

旧静岡3区・民社党候補の選挙戦

住1年未満」(史料A)という「落下傘候補」であったことに鑑み、「安倍先生の基本的執務方を如何に考えるのか」(史料A)という初歩的な問題すら検討の対象となっていた。

最後に注目すべき問題は、以上2点の課題を前提とした、次の総選挙における票読みである。史料Dは1986年の衆参同時選挙(これは現実となった)を想定し、以下のように静岡3区の票読みを行った

- ・有権者70万 投票率80%の場合56万票
- 自民30万 社会6万 公明5万 民社4.5万 共産2.5万
- 浮動票8万(保革半々)

そのうえで自民党が候補3名に絞れば10万票平均となり、全員の当選が可能となり、非自民の議席は1となる。もとより竹本の時代から公明党との選挙協力が行われていたこともあり、それは安倍の下でも「公明党との連携(半年に一度)公明党役員及び創価学会役員と定期的に意思疎通を計る」(史料B)方針が堅持されていた。従って机上の計算では安倍票は9.5万が見込まれた。

さて現実の結果は以下の通りである(1986年7月総選挙)。

| | | | |
|---|------|---------|-----|
| 当 | 塩谷一夫 | 128,644 | 自民元 |
| 当 | 柳沢伯夫 | 119,915 | 自民元 |
| 当 | 熊谷弘 | 114,067 | 自民現 |
| 当 | 安倍基雄 | 80,862 | 民社現 |
| | 元信堯 | 79,460 | 社会前 |
| | 中村敏隆 | 19,910 | 共産 |

自民党の結果は、ほぼ票読みの正確さを示している。しかるに安倍の票は前回選挙の得票から横ばいで、わずかに404票増えたに過ぎず、次点とはわずかな差での薄氷を踏む再選であった。公民協力の机上の計算には遠く及ばず、衆参同日選挙で上昇した投票率の影響も安倍票には皆無であり、竹本票に見られた票の固定化現象のみがここでも継承された。初当選直後から危惧されていた脆弱な後援会組織・地域での存在の希薄さという二大課題は克服されず、1990年総選挙での次点落選に至る(12)。

註

- (1) これと別に竹本は1959年1月の静岡県知事選挙に社会党から立候補し、次点落選している(368,779票)。この出馬は「選挙地盤をつくるのにはいいチャンス」と竹本はみなしていた(「竹本孫一オーラルヒストリー」112頁、註(2)参照)。
- (2) 『C. O. E. オーラル・政策研究プロジェクト 竹本孫一オーラルヒストリー』(2002年、政策研究院大学) <註では「竹本孫一オーラルヒストリー」と表記>及び竹本哲子『誰も書けなかった選挙裏方30年 元代議士夫人が回想する明と暗』<註では「竹本哲子回想」と表記>(1987年、東洋堂企画)。なおオーラルヒストリーには竹本哲子夫人が同席し、竹本の

記憶を補っている。聞き手は伊藤隆・黒沢博道・季武嘉也・竹中治堅（50音順）であり、2000年6月から2001年1月にかけて計7回行われた。

- (3) 前掲「竹本哲子回想」41頁。
- (4) 前掲「竹本孫一オーラルヒストリー」111頁。
- (5) 前掲「竹本哲子回想」42～44頁。日本楽器は「Y（柳沢伯夫とみられる）氏を応援」したと記載がある。
- (6) (7) 前掲「竹本哲子回想」46頁。
- (8) 前掲「竹本孫一オーラルヒストリー」103頁及び123頁。
- (9) 前掲「竹本哲子回想」49～50頁には創価学会関係者への働きかけが記載されている。静岡2区の公明党候補（落選）との交換協力であった。
- (10) 安倍基雄『ある政治家の独白』（1999年、プレジデント社）256～258頁。自民党の後任争いに敗れた安倍は野党との接触をはじめ、その中で春日一幸の勧誘を受けた。安倍は、岸信介に相談したところその際、岸は次の興味深いコメントとともに賛成した。
- ・竹本君は山口県の出身で、わしの乾分のようなものだ。（中略）現在の自民党に決して満足していない。日本も米国や英国のように政権交替のできる二大政党に向かわねばならない。君のような有為な官僚出身者が民社党に行くことは大賛成だ
- 安倍と静岡県とのつながりは、父の安倍源基が静岡県総務部長に就任した10か月（1936年4月～1937年2月）に静岡市に居住したのみである（同書39～43頁）。
- (11) 前掲「竹本孫一オーラルヒストリー」117頁。
- (12) 1990年2月総選挙は自民3・社会1の議席配分で当選ラインは10万票であった。安倍は95,293票と史料Dで見た公明5万・民社4.5万の合計票に至ったが、それでも及ばなかった。その後の選挙結果は以下の通りである。
- 1993年7月総選挙 103,228（民社党、3位当選）*最後の中選挙区制
 - 1996年10月総選挙 比例東海ブロック単独立候補（新進党、当選）
 - 2000年6月総選挙 比例東海ブロック単独立候補（保守党、落選）
- 結果として、安倍が旧静岡3区で選挙戦を展開したのは4回で、「3勝1敗」であった。なお1983年6月に安倍は参議院選挙静岡選挙区（定数2）に出馬し、4位で落選している（168,070票）。この選挙戦は同年12月総選挙に向け知名度を高める位置づけにあった（史料A冒頭参照）。

3. 史料覆刻

（凡例）

- 1、明白な誤記・当て字は修正し、略字・数字・反復記号等の表記は適宜改めた。
- 2、覆刻者の註記は（* ）で示した。

国立国会図書館憲政資料室所蔵 竹本孫一関係文書 219-4 {基友会関係資料}

史料 A 219-4-3 民社の灯を消すな!!

昨年12月18日衆議院解散選挙が施行され、結果については皆さんも御承知のように、世相及び住民パワーが発揮され、旧来の色別によれば、保守2、革新2、という従来のパターンになり、新人3人が当選、現職2人が落選し世代交替も序々に進められていることは、皆さま周知のとおりでございます。

民社党も竹本先生の浜松市長選出馬意志表示以来、幾多の紆余曲折はありましたが、昨年2月竹本代議士の後任に安倍氏を迎え、前哨戦の参議院静岡地方区を戦い、本戦の衆議院選挙を皆さんとともに遮二無二戦い、客観状況も味方し、勝利出来たことは同慶に堪えません。

しかし美酒に酔っている間に3ヶ月が過ぎ、今日時点私たちの取組みに対する巷間の噂と叱咤に対して、真剣に前向きに取組まなくてはならない時期であります。皆さま方の声とは、色々の評言より。

1. 今回の当選は、竹本と言う1本のローソクが燃え尽き、皆さんの手で新しい安倍というローソクに点灯はしたが、燭台で赤々と燃え続けるためには、燭台固めが大変ですよ。
2. 竹本先生の場合は、苦節10年4回に亘る選挙の積み重ねによる基盤があり人間的にも苦労されましたが、安倍君の場合は、緊急の突貫工事のため、基礎工事が充分されておらず、再構築が大変ですね。
3. 竹本事務所の取組みについても、充分とは言えないが、浜松居住1年未満と言う安倍氏に衆議院議員バッジを付けさせたことは偉大であり、今後竹本の個人票を如何に集約して行くか。
4. 安倍先生の今日までの経歴を見ると、前任者の竹本先生を上廻るものがあり、経歴においては第3区の他の代議士の及ぶ処でなく、年令的にも今が一番働き盛りである、と言う声に対して今後活動面で如何に結びつけて行くか。
5. 前段申した経歴も竹本先生と似ているが、今日時点竹本先生が東京へ転居され、安倍さんも東京中心の活動になるのではないか。

等々私たちの取組みに対して、折角力を貸して民社の灯を灯したのに消すなよという忠告だと思えます。

支援者の方々の気持ちは、前回落選した現職組及び新人の動きから見て、私たちの取組みを心配すると同時に、新年の賀状交換会で斉藤慎一氏の言われたように連続二期当選してこそ本物であり、この目的達成のため安倍事務所として、今後下記諸点をどのような考えのもとに取組んで行くのか、3月末日を目途に具体策を樹立されることを強く要望いたします。

記

1. 安倍先生の基本的執務方を如何に考えるのか
 - (1) 浜松における対応
 - (2) 東京における対応
2. 安倍事務所の執行体制を如何にするのか
 - (1) 基本の打合せ
 - (2) 对党議員の打合せ
 - (3) 同盟との打合せ
 - (4) 基友会の把握
 - (5) 対中立労組対策
 - (6) 対公明党対策
3. 有名無実の基友会を如何に運営して行くのか
 - (1) 総会
 - (2) 各地域支部結成の準備
 - (3) 演説会、報告会の開催
4. 安倍先生の知名度を高め顔を知らしめるため
 - (1) ポスターの作成
 - (2) 今後の季節の挨拶について

史料 B 219-4-4 要望に対する具体的施策について

(* 具体的施策が記入されず、空欄の部分もある)

1. 安倍代議士の執務方
 - イ. 基本的に1週間の日程を如何に使うか
月 火 水 木 金 土 日
 - ロ. 地元(佐鳴台)対応を如何にして行くのか
2. 安倍事務所の執行体制
 - イ. 責任の分担について
 - (1) 東京事務所
 - 対国会
 - 对党務
 - その他
 - (2) 浜松事務所
 - 党務
 - 同盟
 - 基友会
 - 中立労組

旧静岡3区・民社党候補の選挙戦

公明党

その他

- ロ. 幹部会（奇数月の第 曜日に開催）
党名 同盟名 基友会名
 - ハ. 党第三区内議員との打合せ会
（偶数月の第 曜日に開催）
 - ニ. 同盟との定例打合せ会（四半期に1回）
西部政治委員会及び各地区同盟責任者と定期的に意志疎通を計る
 - ホ. 基友会幹部との定例会（四半期に1回）
基友会三役及び地域責任者と定期的に意見交換をし、意志疎通を計る
 - ヘ. 中立労組との連携（半年に1回）
本田（技）、鈴木（自）、ヤマハ（発）、三社の労組三役及び浜松市民クラブ
議員と定期打合せを実施する
 - ト. 公明党との連携（半年に1回）
公明党役員及び創価学会役員と定期的に意志疎通を計る
3. 基友会の運営
- イ. 規約を整備し、早急に総会を開催する
 - ロ. 各支部の結成準備
4. その他
- イ. 演説会、報告会等の開催
 - ロ. 支持者宅用のポスターの作成
 - ハ. 挨拶状の発送について

史料C 219-4-5 基友会の充実と拡大

竹本孫一先生を遠州の地へ迎え、各種選挙戦を戦い支援活動を続けるなかで、必然的に後援会組織「竹友会」が生まれ、30年に亘って遠州地方における民社党の各種選挙には、その実績を残して参りました。竹本先生の高齢に伴い後任者選びには紆余曲折がありましたが、昨年2月後継者に安倍基雄氏を迎え、その基盤を引継ぎ、矢継ぎ早やに6月参議院静岡地方区、年末に衆議院選と相次いで戦い、多くの同志、後継者の支持と世状も私どもに味方し、初期の目標でありました竹本先生の後継者安倍基雄先生に、衆議院議員バッチを付けさせることの出来ましたことは、本当に幸運でございました。

しかし次期選挙を考えた場合、現職落選組の巻き返し、若手新人の活動等私たちの前途には、甚だ厳しい条件がありますが、この壁を突破して行かなければなりません。前回選挙は民、同、基、中、公、5本の柱が一体となって、勝利を手中にすることができましたが、政情は幾時如何なる時態が起こるかは、全く予想が不可能であり、私

たちの基本はあくまでも、民社党、同盟、基友会、の3本の柱を基軸に、早期に体制固めを図りかつ中立労組、公明党とも連携を一層深めて行かなくては、なりません。

この場合、民社党については11名の地方議員の方々を中心に、同盟については西部政治委員会及び地区同盟を中心に、幾時でも日常活動のなかで、その切替えが期待されますが、基友会については、会員の活動如何によっては、今後増々拡大する要素はありますが、竹友会から基友会に移行されてから、必要に迫られ役員会は開かれましたが、未だ設立総会すら開催されず、3本の柱のなかで、基友会の今後の取組みこそが、安倍氏の連続当選の可能性を左右するポイントであると言っても過言ではありません。

従って、基友会の充実、拡大こそが急務であり、今日までの竹友会活動の実績を重点に別紙地区から組織作りを実施し、今後年度当初に拡充地区を設定、暫次地区基友会を増し、最終的には100地区位に地区基友会を作り民社党の躍進と安倍氏の後顧のうれいのない議員活動を期待するものであります。

史料 D 219-4-14 安倍基雄再選必勝を期してお願い

(安倍基雄後援会事務局 支持者各位宛 昭和59年5月20日)

今年は5月中旬を過ぎても、気候不順が続きますが、皆様には増々御壮健にてお暮しのことと、御推察申し上げます。昨年来実施された衆議院選挙に際しましては、絶大なる御支援を賜り、お蔭様で安倍氏も元気に議員活動に専念いたしております。

さて、選挙戦を考えた場合、次の選挙は幾時施行されるだろうと言うことですが、衆議院選挙の場合は、地方議員選挙と違い、総理大臣の解散権と言う特権により、幾時解散総選挙が実施されるかわからないが、任期満了時と言うことなら、62年12月であります。しかし幾時如何なる政情異変が起るかは、予測できず、現状では過去自民党が大勝利を収めた、衆参同時選挙と同じ時期にと言うのが一番有力視(61.6)されておりますが、現国会の最重要議案であります健保法の改正問題の成り行き次第、又、自民党総裁選(任期2年のため59.11、61.11)にからむハブニング、田中裁判等幾時如何なる時態が発生するかは、神のみぞ知る問題であります。

現時点で静岡県第3区には、有権者数が70万票あり、これを投票率80%と推定した場合、56万票となり、町の選挙通のうわさによれば、各政党の基礎票は、自民30万、社会6万、公明5万、民社4.5万、共産2.5万、浮動票8万(保革半々)と言われており、今後各陣営の浮動票の集約活動及び無関(*原文は感)心層の掘り起しが、次回衆議院選挙のキーポイントと言われております。自民党は足立氏の去就が焦点となっておりますが、立候補者を3人にしぼった場合各人の基礎票は10万票平均となり、又社会党の元信氏の場合、選挙後の行動力に対する人気はあなどりがたく、前回苦杯をなめた前職議員の日常活動は日増しに熱気をおび、次回選は前回選に比べ一層の激選(*原文のまま)となり、私たちの陣営の苦戦は明白であります、何が何でもこ

旧静岡3区・民社党候補の選挙戦

の壁を突破しなくてはなりません。

思えば30有余年前、先輩諸兄が遠州の地に竹本孫一先生を迎え、苦節10年基盤づくりに努力され、民社の灯をともしてから20年の永きに亘り竹本先生を師事し、支援して参り、昨年安倍氏にバトンタッチすることができました。私たちはこの間、竹本先生を中心に暫次民社の輪を広げ、竹本先生という傘の下に諸問題を解決して参りましたが、30年前の頂点のなかった時代のみじめさを2度と味あうことのないよう、一丸となって努力しなくてはなりません。

組織の内外で今日色々言われておりますが、平たく言えば、安倍という嫁さんを迎え、籍も入れた状態です。家庭の繁栄を願うならば、お互が助け合い、皆さんも安倍氏に対し助言もし、支援もし、一方安倍氏も一日も早く遠州の家風に馴み、第3区における竹本先生の灯した民社の灯を、更に赤々と灯さなくてはなりません。

上記のような状況のなか、今後民社党、静岡県同盟西部政治委員会、遠州基友会の3本柱が一体となって取組みを進めなくてはなりません。遠州基友会として取敢えず、出来得る状況にある処から、遠州基友会地区支部の結成を事務局で、唯今要請にお伺いいたしておりますが、何にいたしましても安倍氏の知名度を挙げるのが急務であり、日々お忙しい処恐縮ですが、貴殿の廻りで集会、人寄せ等があり、安倍氏に挨拶をさせる機会がありましたら、是非事務局（*電話番号略）まで、ご連絡ください。なお事務局に対する要望、意見等がございましたら、御足労ですが御来所下さるなり、お電話でお知らせ下さい。

連続2期当選してこそ真打ちであり事務局一同も再選を期して頑張ります。

（*以上で文書は完結しているが、さらに別の機会に作成されたとみられる文書が続いている、文書番号が同じ枠で整理されているため続けて覆刻する）

昨年10月20日浜北市サンライフ浜北において、民社党第3選挙区連臨時大会を開催以来早くも8ヶ月を経過し、活動の2大目標でありました、衆議院選における改選議席の確保及び浜北市議選公認2候補の必勝については、皆さんの御尽力により初期の目的達成のできましたことは御同慶に堪えません。

さて衆議院選以来早くも半年を経過し、表面上は大過なく過ぎたように見えますが、有志基友会幹部を中心に次期を考え、新体制の取組みについて模索を進めましたが余り芳しい進展は見られず、巷間の噂と党に対する支持者の声を例記して、党の前進的取組みを期待するものであります。

1. 安倍先生の選挙区内における活動について

次回の衆議院選を思考した場合、戦後最大の激戦になることはいなめません、現に前回落選した元議員の日常活動は、すさまじいものがあります。

某市長も私達の支持者の方に、安倍先生は今日までのキャリアから言って引続いて活躍願いたい方ですが、塩谷、柳沢両先生は良く見えますが、安倍先生は如

何されておるのですか、矢張り東京の人ですかねえ。

又某町長は、自民党の先生方は私の町へ来られた時にはよく役所へ寄って行かれますが、貴殿方の先生は余りお見受けしませんねえ。

これ等に加え、現在安倍先生の居住されております佐鳴台の人から、地区住民の殆んどの人達が、先生が地区住民であることを知らないと言うような声に対して今後どのように取組むのか。

2. 安倍事務所の活性化について

過日、今日の安倍事務所は6人体制で運営されている旨報告がありました。前回選を省みても党、同盟、基友会、中立労組、公明党、各種支持団体とその範囲は非常に広大であり、早急に責任体制を明確にし、各団体と連絡を充分にとり、活発な日常活動を希望するものであります。なお一部の人達から折角事務所を設けたら、気軽に何んでも、何時でも相談に行けるように考慮されたい。

3. 党として地域における各種サークルへの参画

年末における党、同盟の年末助け合い運動、山崎県議を中心とした明るい社会作り協議会の奉仕活動、矢崎労組の皆さんの清掃奉仕作業等が新聞に報ぜられましたが、今日では住民の要望により各地域の公民館、体育館の充実に伴い、地域の壮年、婦人、老人等を対象（*原文は照）とした各種活動団体、又各個人の趣味、健康を考慮した各種サークル等が活発に運営されております。

党員及び同盟組合員のこれ等活動の集約と、今後党としての積極的参画と適切な指導を希望いたします。

4. 民社党支持同盟組合員 OB の把握について

第3選挙区内で各種選挙活動を実施した場合とか、又各種会合等に出席したとき、「私は若いとき、〇〇会社又は〇〇組合におりその時以来選挙の時には民社党の人に投票していましたよ」と言う声をよく聞きます。

党の顔も、竹本から安倍に変わり、党勢強化、拡大のためにも、今一度同盟参加各組合の協力を得て、各組合毎のOBの点検、再組織化は実施出来ないものか。

5. バランスのとれた党支持基盤の整備

現在第3選挙区連内には、4総支部がありますが、全体を考慮した場合不十分であり、党勢の拡大も多くは望めません、一度に各地にと言っても無理ですが、浜松、磐田、浜北、湖西の次には年次目標を建て、袋井、引佐、周智、北遠とバランスのとれた下部組織の充実を切望する処であり、将来各行政上の市町村単位に同志の議員誕生を待ち望むものであります。

旧静岡3区・民社党候補の選挙戦

参考史料 竹本孫一関係文書218-31

「郡部基本選挙人名簿登録者数と獲得割当目標数」(1963年総選挙)

| 郡 | 町・村 | 有権者数 | 従業員居住数 | 前回得票数 (35年11月) | 獲得割当目標 |
|---------|--------|---------|--------|-------------------|--------|
| 浜 名 | 湖 西 | 16,274 | 1,340 | 3,845 | 5,500 |
| | 新 居 | 8,070 | 502 | 1,462 | 2,000 |
| | 舞 阪 | 5,736 | 141 | 681 | 800 |
| | 雄 踏 | 6,511 | 181 | 309 | 800 |
| | 庄 内 | 7,151 | 84 | 404 | 800 |
| | 可 美 | 5,283 | 202 | 1,087 | 900 |
| | 小 計 | 49,025 | 2,450 | 7,788 | 10,800 |
| 磐 田 | 福 田 | 9,446 | 191 | 1,002 | 1,500 |
| | 竜 洋 | 7,335 | 212 | 850 | 1,100 |
| | 豊 岡 | 5,741 | 180 | 468 | 700 |
| | 豊 田 | 6,033 | 173 | 646 | 1,000 |
| | 佐 久 間 | 10,055 | 154 | 1,128 | 1,500 |
| | 水 窪 | 5,367 | 84 | 334 | 600 |
| | 竜 山 | 2,937 | 102 | 528 | 800 |
| 浅 羽 | 6,434 | 62 | 363 | 500 | |
| 小 計 | 53,348 | 1,158 | 5,319 | 7,700 | |
| 周 智 | 春 野 | 8,140 | 126 | 656 | 1,000 |
| | 森 | 14,244 | 251 | 936 | 1,300 |
| | 小 計 | 22,384 | 377 | 1,592 | 2,300 |
| 引 佐 | 三 ケ 日 | 9,629 | 250 | 765 | 1,100 |
| | 細 江 | 8,314 | 142 | 583 | 800 |
| | 引 佐 | 9,780 | 187 | 594 | 800 |
| | 小 計 | 27,723 | 579 | 1,942 | 2,700 |
| 浜 北 市 | | 31,300 | 1,433 | 3,813 | 5,500 |
| 磐 田 市 | | 34,444 | 442 | | 4,400 |
| | | | 281 | 3,034 | |
| | 小 計 | | 723 | 3,034 | 4,400 |
| 袋 井 市 | | 22,737 | 353 | 1,742 | 2,500 |
| (旧山梨) | | | | 325 | |
| 天 竜 市 | | 18,325 | 740 | 2,143 | 2,500 |
| 合 計 | | 259,286 | 7,813 | 27,698 | 38,400 |
| (欄外手書き) | | | | | |
| 浜 松 市 | | 208,394 | | | 40,894 |
| 総 計 | | 467,680 | 4月現在 | | 79,294 |

<付記>本稿の素稿は2020年3月に仕上がり、更に国立国会図書館で補充的な史料調査を行う予定であったが、いわゆる「コロナ禍」の拡大により、国立国会図書館の長期休館・抽選予約制の入館再開措置等変則的な状況が続き、遺憾ながら補充調査には至らなかった。後日状況の正常化を受け、本稿の「補遺」を行う可能性がある。